ONKYO®

インテグレーテッドアンプ

A-5VL

取扱説明書

お買い上げいただきまして、ありがとうございます。ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られる所に保証書、オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内とともに大切に保管してください。

カタログおよび包装箱などに表示されている型名の最後にあるアルファベットは、 製品の色を表す記号です。
色は異なっても操作方法は同じです。

安全上のご注意

安全上のご注意
安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずお読みください。

電気製品は、誤った使い方をすると大変危険です。
あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、「安全上のご注意」を必ずお守りください。

「警告」と「注意」の見かた	
間違った使い方をしたときに生じることが想定される危険度や損害の程度によって、「警告」と「注意」に区分して説明しています。	
⚠ 警告	誤った使い方をすると、火災・感電などにより死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。
⚠ 注意	誤った使い方をすると、けがをしたり周辺の家財に損害を与える可能性が想定される内容です。

絵表示の見かた	
△ 記号は「ご注意ください」という内容を表しています。	高温注意 感電注意
⃠ 記号は 「～してはいけない」という禁止の内容を表しています。	分解禁止 ぬれ手禁止
● 記号は 「必ずしてください」という強制内容を表しています。	電源プラグをコンセントから抜く 必ずする

⚠ 警告

故障したまま使用しない、異常が起きたらすぐに電源プラグを抜く

電源プラグをコンセントから抜く

- 煙が出ている、変なにおいや音がする
- 本機を落としてしまった
- 本機内部に水や金属が入ってしまった

このような異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。
すぐに電源プラグをコンセントから抜いて販売店に修理・点検を依頼してください。

カバーははずさない、分解、改造しない

分解禁止

火災・感電の原因となります。
内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。

接続、設置に関するご注意

■通風孔をふさがない、放熱を妨げない

禁止

本機には内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔があけてあります。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災ややけどの原因となることがあります。

- 押し入れや本箱など通気性の悪い狭い所に設置して使用しない
（天面、横から 20cm 以上、背面から 10cm 以上のスペースをあける）
- 逆さまや横倒しにして使用しない

禁止

- 布やテーブルクロスをかけない
- じゅうたんやふとんの上に置いて使用しない

■水蒸気や水のかかる所に置かない、本機の上に液体の入った容器を置かない

水場での使用禁止
水濡れ禁止

本機に水滴や液体が入った場合、火災感電の原因となります。

- 風呂場など湿度の高い場所では使用しない
- 調理台や加湿器のそばには置かない
- 雨や雪などがかかるところで使用しない
- 本機の上に花びん、コップ、化粧品、ろうそくなどを置かない

電源コード・電源プラグに関するご注意

■電源コードを傷つけない

禁止

- 電源コードの上に重い物をのせたり、電源コードが本機の下敷にならないようにする
- 傷つけたり、加工したりしない
- 無理にねじったり、引っ張ったりしない
- 熱器具などに近づけない、加熱しない

電源コードが傷んだら（芯線の露出・断線など）販売店に交換をご依頼ください。
そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

安全上のご注意 - つづき

⚠警告

■電源プラグは定期的に掃除する

電源プラグにほこりなどがたまっていると、火災の原因となります。
電源プラグを抜いて、乾いた布でほこりを取り除いてください。

使用上のご注意

■本機内部に金属、燃えやすいものなど異物を入れない

火災・感電の原因となります。特に小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。

- 本機の通風孔から異物を入れない
- 本機の上に通風孔に入りそうな小さな金属物を置かない

■長時間音がひずんだ状態で使わない

アンプ、スピーカーなどが発熱し、火災の原因となることがあります。

■雷が鳴りだしたら本機、接続機器、接続コード、電源プラグに触れない

感電の原因となります。

電池に関するご注意

■乾電池を充電しない、加熱・分解しない、火や水の中に入れない

電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

- 指定以外の電池は使用しない
- 新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない
- 電池を使い切ったときや長時間リモコンを使用しないときは電池を取り出す
- コインやネックレスなどの金属物と一緒に保管しない
- 極性表示（プラス＋とマイナス－の向き）に注意し、表示通りに入れる

■電池から漏れ出た液にはさわらない

万一、液が目や口に入ったり皮膚に付いた場合は、すぐにきれいな水で充分洗い流し、医師にご相談ください。

⚠注意

接続、設置に関するご注意

■不安定な場所や振動する場所には設置しない

強度の足りないぐらついた台や振動する場所に置かないでください。
本機が落下したり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

■配線コードに気をつける

配線された位置によっては、つまずいたり引っかかったりして、落下や転倒など事故の原因となることがあります。

電源コード・電源プラグに関するご注意

■表示された電源電圧（交流１００ボルト）で使用する

本機を使用できるのは日本国内のみです。
表示された電源電圧以外で使用すると、火災・感電の原因となります。

■電源コードを束ねた状態で使用しない

発熱し、火災の原因となることがあります。

■電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない

コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。
プラグを持って抜いてください。

■長期間使用しないときは電源プラグをコンセントから抜く

絶縁劣化やろう電などにより、火災の原因となることがあります。

■電源プラグは、コンセントに根元まで確実に差し込む

差し込みが不完全のまま使用すると、感電、発熱による火災の原因となります。
プラグが簡単に抜けてしまうようなコンセントは使用しないでください。

安全上のご注意 - つづき

⚠注意

■ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない

ぬれ手禁止

感電の原因となることがあります。

■お手入れの際は電源プラグを抜く

電源プラグをコンセントから抜く

お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いてから行なってください。

使用上のご注意

■通風孔の温度上昇に注意

注意

本機通風孔付近は放熱のため高温になることがあります。
電源が入っているときや、電源を切った後しばらくは通風孔付近にご注意ください。

■音量を上げすぎない

禁止

突然大きな音が出てスピーカーやヘッドホンを破損したり、聴力障害などの原因となることがあります。

■長時間大きな音でヘッドホンを使用しない

禁止

聴力に悪い影響を与えることがあります。

移動時のご注意

■移動時は電源プラグや接続コードをはずす

電源プラグをコンセントから抜く

コードが傷つき火災や感電の原因になります。

■本機の上にものを乗せたまま移動しない

禁止

本機の上に他の機器を乗せたまま移動しないでください。
落下や転倒してけがの原因になります。

■ 機器内部の点検について
お客様のご使用状況によって、定期的に機器内部の掃除をお勧めします。
本機の内部にほこりのたまったまま使用していると火災や故障の原因となることがあります。
特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。内部清掃については、販売店にご相談ください。

■ 本機のお手入れについて
- 表面の汚れは、中性洗剤をうすめた液に布を浸し、固く絞って拭き取ったあと乾いた布で拭いてください。化学ぞうきんなどお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどに従ってください。
- シンナー、アルコールやスプレー式殺虫剤を本機にかけないでください。塗装が落ちたり変形することがあります。

音のエチケット

楽しい映画や音楽も、時間と場所によっては気になるものです。
隣り近所への配慮を十分にしましょう。特に静かな夜間には窓を閉めたり、
ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。
お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

本機の特長

- ■ オンキヨー独自開発のデジタルアンプ技術「VL digital」を搭載した、薄型ステレオプリメインアンプ
- ■ 大容量コンデンサー、銅バスプレートなどオーディオクォリティを追究した厳選されたパーツ群
- ■ L/Rチャンネルそれぞれにトランスを使用、L/Rの電源を分離することで相互の干渉を防ぎ、さらなる音質向上
- ■ VLSC* 搭載（PCM音声信号に対応）
- ■ ハイグレード24bit/192kHzD/Aコンバーター採用
- ■ バナナプラグ対応大型スピーカー端子装備
- ■ インレットタイプ（着脱式）極太電源コード
- ■ オンキヨー製他機器も操作可能なシステムリモコン付属
- ■ オンキヨー製RIドックとの接続に対応
- ■ フォノイコライザー搭載（MM型/MC型カートリッジレコードプレーヤー対応）

*VLSC（VectorLinear Shaping Circuitry）は、オンキヨー株式会社の登録商標です。

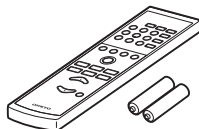
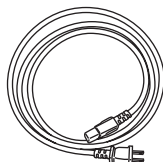
目次

使用の前に

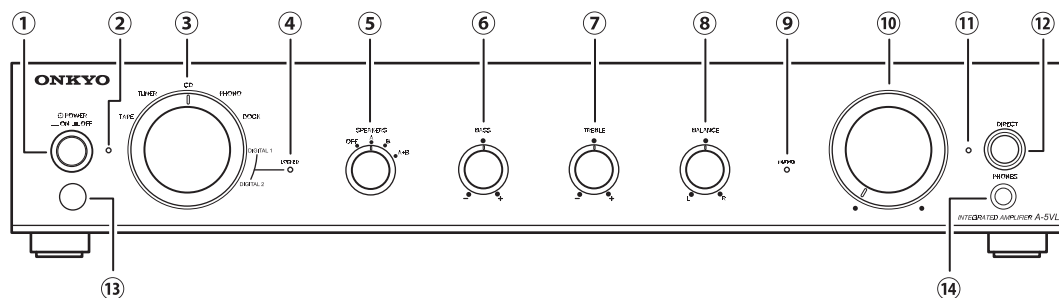
本機を使用する前に確認していただきたいことや、知っておいていただきたい情報を説明します。

付属品の確認

パッケージを開梱したら、付属品が揃っていることを確認してください。

- リモコン （RC-751S） .....1 個
- 単 3 型乾電池 （R6） ....2 本

- 電源コード （2m） .... 1 本

- 取扱説明書 （本書） ....1 冊
- 保証書 ....1 部
- ユーザー登録カード ....1 枚
- オンキヨーご相談窓口 ・
  修理窓口のご案内 ....1 枚

各部の名称

本体前面

① **POWERスイッチ**
本機の電源をオン/オフします。

② **POWERインジケーター**
電源オン時に点灯します。

③ **入力切換つまみ**
再生する機器を選択します。

④ **LOCKEDインジケーター**
DIGITAL1（COAXIAL）またはDIGITAL2（OPTICAL）に接続した機器からの音声信号の入力時に点灯します。

⑤ **SPEAKERSつまみ**
出力するスピーカーをA、B、A+B、OFFから選択します。

⑥ **BASS調節つまみ**
低音（BASS）の音量を調節します。

⑦ **TREBLE調節つまみ**
高音（TREBLE)の音量を調節します。

⑧ **BALANCE調節つまみ**
音声の左右のバランスを調節します。

⑨ **MUTINGインジケーター**
ミュート（消音）中に点灯します。

⑩ **VOLUMEつまみ**
音量を調節します。

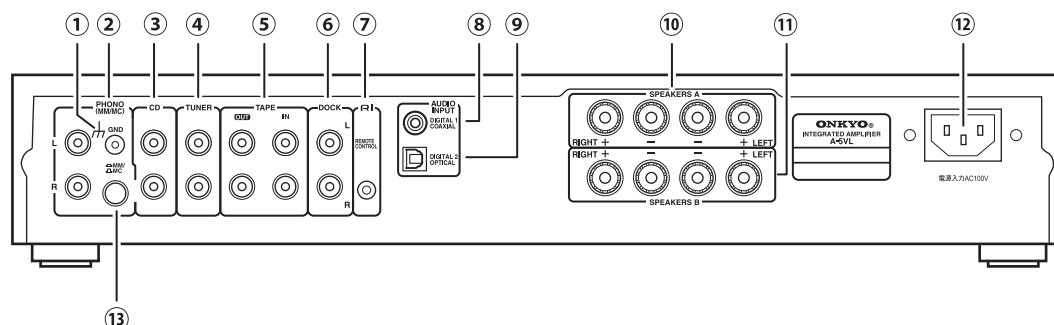
⑪ **DIRECTインジケーター**
ダイレクト出力時に点灯します。

⑫ **DIRECTスイッチ**
入力される音声信号をダイレクトに出力するか、本機でBASS、TREBLE、BALANCEを調節して出力するかを選択できます。

⑬ **リモコン受光部**

⑭ **PHONES端子**
標準プラグのステレオヘッドホンを接続できます。

使用の前に - つづき

本体背面

① **GND端子**
レコードプレーヤーと接続する場合に、レコードプレーヤーのアース線を接続します。

② **PHONO（MM/MC）端子**
レコードプレーヤーの音声出力端子と接続します。

③ **CD端子**
CDプレーヤーの音声出力端子と接続します。

④ **TUNER端子**
チューナーの音声出力端子と接続します。

⑤ **TAPE IN/OUT端子**
テープデッキやMDレコーダーなどの録音機器を接続します。

⑥ **DOCK端子**
iPod用オンキヨー RI ドックを接続します。

⑦ **RI REMOTE CONTROL端子**
RI端子付きのオンキヨー製品（RI ドックやチューナー）と接続し、連動させるための端子です。

メモ

RIコードを接続しただけでは、接続した機器と連動できません。必ずオーディオ用ピンコードでも接続してください。

⑧ **AUDIO INPUT DIGITAL 1 COAXIAL端子**
デジタル音声の入力端子です。デジタル再生機器を接続します。

⑨ **AUDIO INPUT DIGITAL 2 OPTICAL端子**
デジタル音声の入力端子です。デジタル再生機器を接続します。

⑩ **SPEAKERS A端子**
スピーカー Aを接続します。

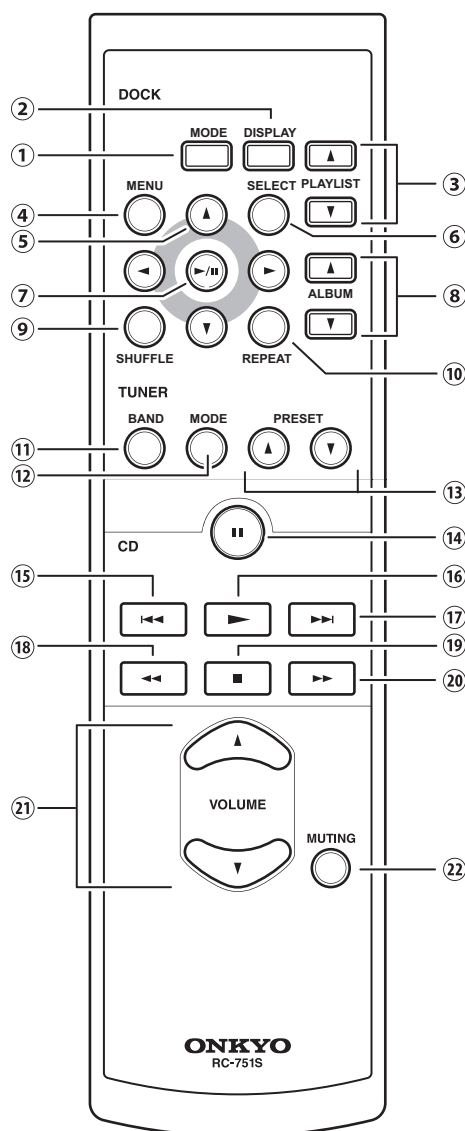
⑪ **SPEAKERS B端子**
スピーカー Bを接続します。

⑫ **AC INLET**
付属の電源コードを接続します。

⑬ **MM/MC切換スイッチ**
レコードプレーヤーのカートリッジの形式（MM型/MC型）に合わせて切り換えます。

! ご注意

- PHONO端子にはレコードプレーヤー以外の機器を接続しないでください。
- PHONO端子にレコードプレーヤーを接続するときは、端子に差し込まれているショートピンを外してください。
- 高出力MCカートリッジを使用するときは、MM型に切り換えてください。

リモコン

ドック
DOCK

RI接続したオンキヨー製RIドックに搭載したiPodを操作できます。

モード
① **MODEボタン（*）**
登載機器の曲情報をモニタに表示できます。（2009年4月現在、本機能の対応機種は未定です。）

ディスプレイ
② **DISPLAYボタン（*）**
iPodのバックライトを点灯させます。

プレイリスト
③ **PLAYLISTボタン**
再生するプレイリストを切り換えます。

メニュー
④ **MENUボタン（*）**
iPodのメニューで、1つ前の画面に戻ります。

⑤ **▲▼◄►ボタン**
▲▼を押すと、iPodの曲の選択やiPodのメニュー操作ができます。
◄►を押すと、iPodでTRACK UP/DOWNが行えます。長押しすると、早戻し/早送りができます。

セレクト
⑥ **SELECTボタン**
iPodのメニューを選択します。

プレイ/ポーズ
⑦ **►/❚❚ ボタン**
iPodの再生/一時停止を操作できます。

アルバム
⑧ **ALBUMボタン**
再生するアルバムを切り換えます。

シャッフル
⑨ **SHUFFLEボタン**
シャッフルモードを切り換えます。

リピート
⑩ **REPEATボタン（*）**
リピートモードを切り換えます。

メモ

- *この記号が付いた機能は、第3世代iPodでは使用できません。
- iPodは、米国およびその他の国々で登録されたApple Inc.の商標または登録商標です。
- 詳しくは、RIドックの取扱説明書を参照してください。

チューナー
TUNER

RI接続したオンキヨー製チューナーを操作できます。

バンド
⑪ **BANDボタン**
受信するバンド（FM/AM）を切り換えます。

モード
⑫ **MODEボタン**
FM放送受信時に受信モードを切り換えます。

プリセット
⑬ **PRESETボタン**
プリセットした放送局を選択します。

CD

オンキヨー製CDプレーヤーを操作できます。
リモコンをCDプレーヤーに向けて操作してください。

⑭ ❚❚（ポーズ）ボタン
再生を一時停止します。

⑮ ❙◀◀ボタン
再生中の曲を頭出しします。

⑯ ▶（プレイ）ボタン
再生します。

⑰ ▶▶❙ボタン
次の曲を頭出しします。

⑱ ◀◀ボタン
早戻しします。

⑲ ■（ストップ）ボタン
再生を停止します。

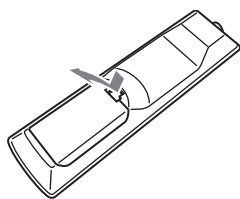
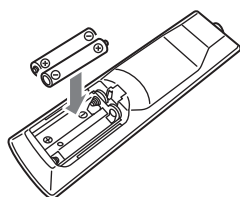
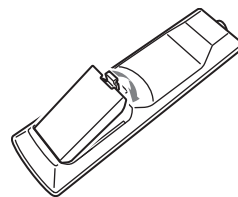
⑳ ▶▶ボタン
早送りします。

本機

㉑ VOLUME（ボリューム）ボタン
音量を調整します。

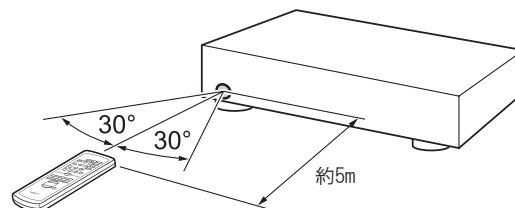
㉒ MUTING（ミューティング）ボタン
音声を一時的に最小にします。もう一度押すと、元の音量に戻ります。

リモコンの準備

1 ツメを矢印方向に押して持ち上げ、カバーをはずします。

2 中の極性表示にしたがって、付属の電池2個をプラス⊕、マイナス⊖を間違えないように入れます。

3 カバーを閉めます。

リモコン操作の反応が悪くなったら、2本とも新しい乾電池（単3形）と交換してください。

- 電池の極性（⊕、⊖）は、表示通り正しく入れてください。
- 種類の異なる電池の使用や、新しい電池と古い電池の混用は避けてください。
- 長期間リモコンを使用しないときは、電池の液もれを防ぐため、電池を取り出しておいてください。

正しく操作するには

本体の受光部に向けて、図の範囲内で操作してください。

- リモコン受光部に直射日光やインバーター蛍光灯などの強い光を当てないでください。
- 赤外線を発射する機器の近くで使用したり、他のリモコンを併用すると誤動作の原因となります。
- オーディオラックのドアに色付きガラスを使っていると、リモコンが正常に機能しないことがあります。
- リモコンとリモコン受光部の間に障害物があると、操作できません。
- リモコンの上に本などの物を置かないでください。ボタンが押し続けられた状態になり、電池が消耗してしまうことがあります。

他の機器との接続

再生機器や録音機器などと接続します。接続方法にはアナログとデジタルの2種類があります。お楽しみいただく音声の種類に合わせて接続方法を選択してください。

! ご注意

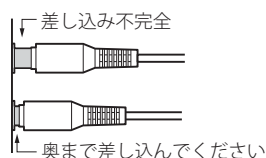
振動する場所には設置しないでください。

コードの接続に関するご注意

オーディオ用ピンコードの接続

- コネクターの色と音声の左右チャンネルに注意して接続してください。

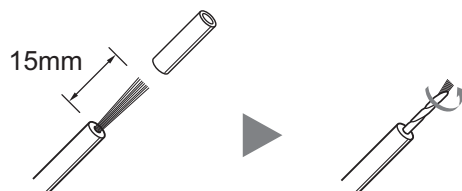
白色:左(L) 白色:左(L)
赤色:右(R) 赤色:右(R)

- プラグは根本までしっかり差し込んでください。差し込みが不十分だと、ノイズや動作不良の原因になります。

- オーディオ用ピンコードを電源コードやスピーカーコードと一緒に束ねないでください。音質悪化の原因になります。

デジタル接続

デジタル音声の入力端子は「OPTICAL（オプティカル）」と「COAXIAL（コアキシャル）」の2種類があります。接続する機器に応じた端子と接続コードを使用してください。

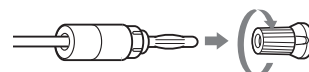
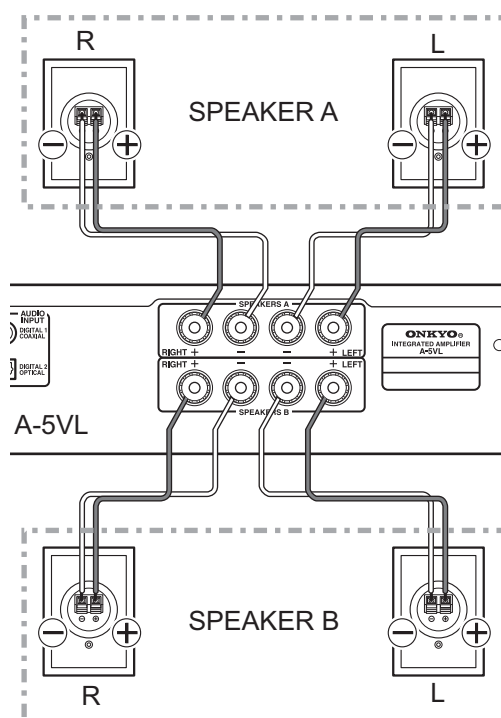
スピーカーの接続

1 スピーカーコードの被覆を15mm切り取り、露出させたしん線をしっかりよじります。

2 スピーカー端子のねじをゆるめてしん線を差し込み、ねじを締めます。

! ご注意

- しん線が本機背面のパネルなどの金属部分に触れないよう注意してください。
- Yプラグは接続できません。

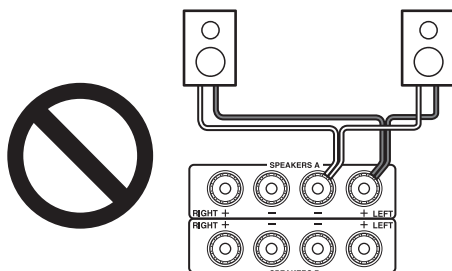
メモ

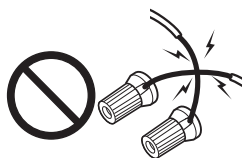
バナナプラグタイプのスピーカーコードも接続できます。スピーカー端子のネジを締め、バナナプラグを差し込んでください。

3 図のようにスピーカーを接続します。スピーカー側のプラス⊕と本機側のプラス⊕、スピーカー側のマイナス⊖と本機側のマイナス⊖とを接続します。

メモ

本機には2セットのスピーカーを接続できます。音楽を鑑賞するときに、どちらのスピーカーから音を出すか選択できます。また、両方のスピーカーから音を出すこともできます。

- スピーカー AまたはB端子の一方だけに接続する場合は、インピーダンスが2～16Ωのスピーカーを使用してください。
- スピーカー AとB端子の両方に接続する場合は、インピーダンスが4～16Ωのスピーカーを使用してください。4Ω未満のスピーカーを接続すると、保護回路が働く場合があります。

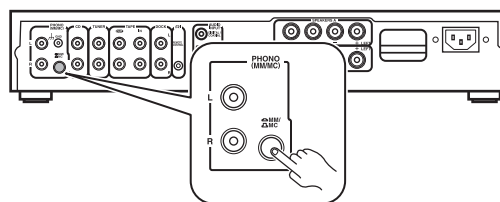
! ご注意

- コードのプラス⊕／マイナス⊖、スピーカーの左右に注意して接続してください。間違った接続をすると、音が不自然になります。
- 1つのスピーカー端子に複数のスピーカーコードを接続しないでください。故障の原因になります。
- 1台のスピーカーだけを使用する場合やモノラル音声を再生する場合に、1台のスピーカーを左右スピーカー端子に並列接続しないでください。

⚠ 危険

スピーカーコードのしん線のプラスとマイナスを絶対に接触させないでください。回路が故障します。

オーディオ機器の接続

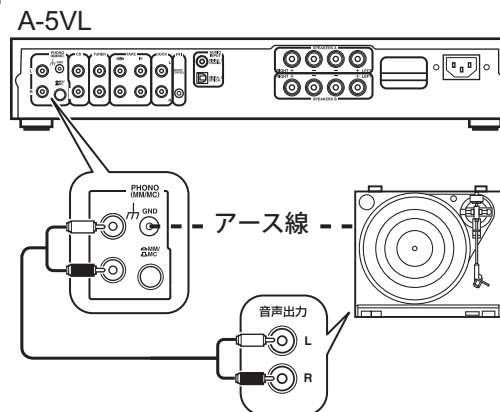
レコードプレーヤー

1 本機の電源をオフにします。

2 レコードプレーヤーのカートリッジ形式に合わせて、本機背面のMM/MC切換スイッチでMM/MCを切り換えます。

! ご注意

MM/MCの切り換えは、必ず本機の電源がオフの状態で行ってください。

3 PHONO（フォノ）端子に差し込まれているショートピンを外します。

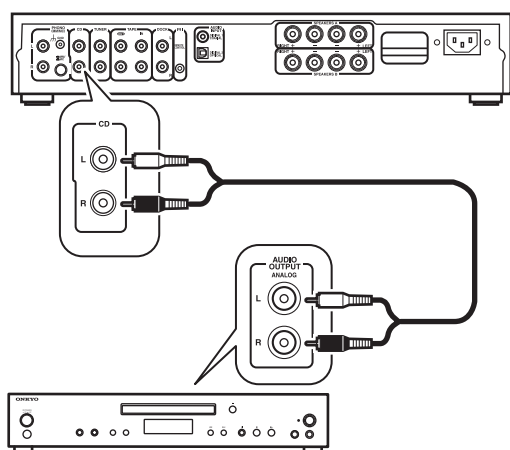
4 図のように接続します。

A-5VL

! ご注意

レコードプレーヤーにアース線がある場合は、本機のGND（グランド）端子に接続してください。ただし、レコードプレーヤーによってはアース線を接続することでノイズが大きくなることがありますので、その場合はアース線を接続しないでください。

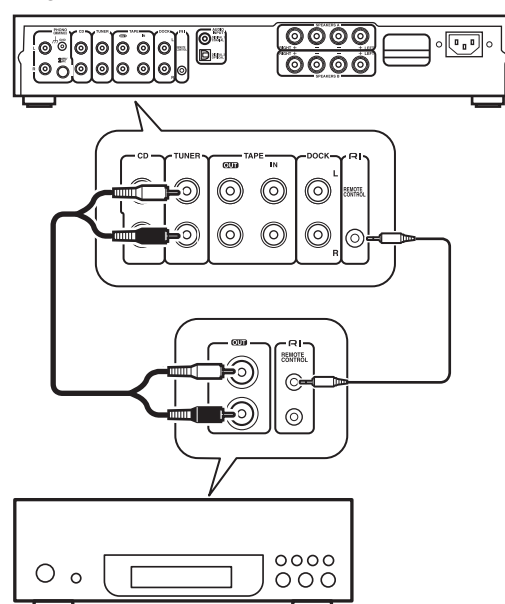
スーパーオーディオCDプレーヤー、CDプレーヤー

CDプレーヤーの音声出力端子と本機のCD端子を接続します。

A-5VL

FM/AMチューナー

FM/AMチューナーの音声出力端子と本機のTUNER（チューナー）端子を接続します。

RI端子を持つオンキヨー製FM/AMチューナーと接続できます。接続したチューナーを本機のリモコンで操作できます。
RIコードで、本機のRI端子とチューナーのRI端子を接続します。
本機の音声入力端子とチューナーの音声出力端子を接続します。

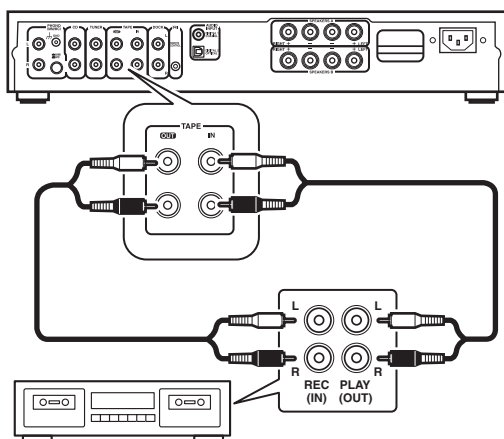
A-5VL

! ご注意

- **RI接続するときは、必ずオーディオ用ピンコードも接続してください。RIコードを接続しただけでは、本機のリモコンでチューナーを操作できません。**
- **RI接続した場合、チューナーのタイマー機能は使用できません。**

他の機器との接続 - つづき

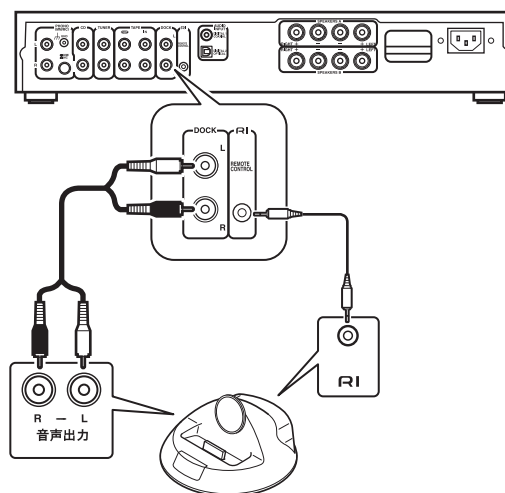
テープデッキ、MDレコーダー

テープデッキ、MDレコーダーの音声出力端子（PLAY）と本機のTAPE IN端子を接続します。
テープデッキ、MDレコーダーの音声入力端子（REC）と本機のTAPE OUT端子を接続します。

A-5VL

RIドック

オンキヨー製RIドックを接続できます。

1 **RIドックのAUDIO OUT端子と、本機のDOCK端子を接続します。RIドックと本機のRI端子をRIケーブルで接続します。**

A-5VL

（イラストはオンキヨー製RIドックDS-A1Xとの接続例）

2 **RIドックのRI MODE切換スイッチを「HDD」または「HDD/DOCK」にします。**

3 **本機の入力切換つまみを「DOCK」にします。**

メモ

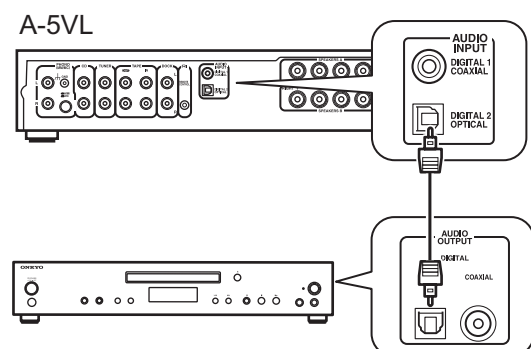
RIドックの取扱説明書も参照してください。

他の機器との接続 - つづき

デジタル再生機器（OPTICAL（オプティカル））

市販の光デジタルケーブルで接続します。

メモ

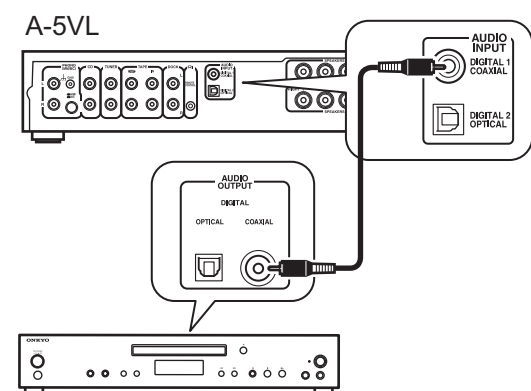
- 本機のデジタル入力は、16/24bit、32/44.1/48/96kHzのPCM信号に対応しています。
- 対応していない信号を入力した場合、ノイズが発生する可能性があります。
- 対応していない信号を検出すると、本機のLOCKED（ロックド）インジケーターが点滅します。
- DTS-CDのデジタル音声信号は入力しないでください。

ご注意

光デジタルケーブルはまっすぐに抜き差ししてください。斜めにして抜き差しすると、OPTICAL（オプティカル）端子のとびらが破損するおそれがあります。

デジタル再生機器（COAXIAL（コアキシャル））

市販の同軸デジタルケーブルで接続します。

メモ

- 本機のデジタル入力は、16/24bit、32/44.1/48/96kHzのPCM信号に対応しています。
- 対応していない信号を入力した場合、ノイズが発生する可能性があります。
- 対応していない信号を検出すると、本機のLOCKED（ロックド）インジケーターが点滅します。
- DTS-CDのデジタル音声信号は入力しないでください。

電源コードの接続

ご注意

- 電源コードは、他の機器と本機の接続が完了してから接続してください。
- 電源コードの抜き差しは、本機の電源がオフの状態で行ってください。

1 他の機器と接続します。（→p.10）

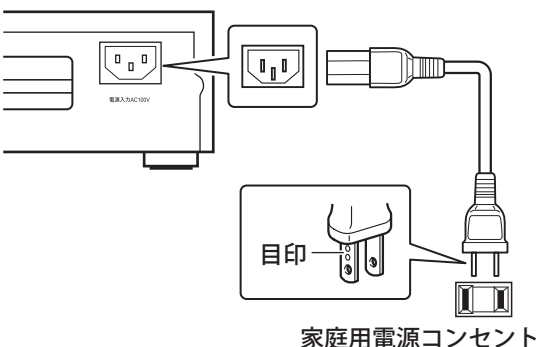
2 本機の電源がオフになっていることを確認します。

3 付属の電源コードを本機のAC INLET（インレット）に接続します。

ご注意

- 必ず付属の電源コードを使用してください。
- 絶対に、先にコンセントに電源コードを差し込まないでください。コンセントに接続した電源コードを本機に抜き差しすると、感電のおそれがあります。

4 電源コードのプラグを家庭用電源コンセントに接続します。

家庭用電源コンセント

メモ

本機では電源の極性が管理されています。より良い音でお楽しみいただくためには、プラグの刃の印がある方がコンセントの溝が長い方の穴に差し込まれるようにして接続してください。
コンセントの溝の長さが左右とも同じ場合は、どちらの向きで接続してもかまいません。

ご注意

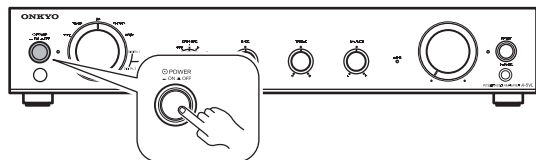
電源コードを外す場合は、必ず先にコンセントから電源コードを抜いてから、本機から電源コードを抜いてください。

音楽の鑑賞（本機の操作方法）

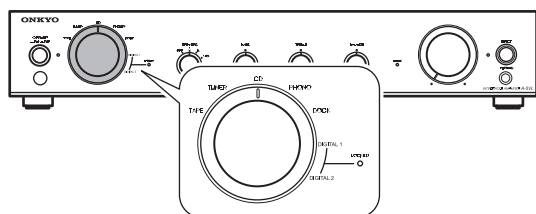
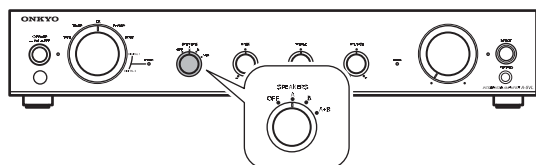
1 本機に接続している機器の電源をオンにします。

2 本機前面のPOWER（パワー）スイッチを押して電源をオンにします。

POWER（パワー）インジケーターが点灯します。

メモ

- 電気回路が安定するまで音声は出力されません。
- 本機の電源をオンにしてから10〜30分ほど経過した方が、音質が安定します。

3 入力切換つまみを回して、音声を再生する機器を選択します。

選択した端子に接続している機器の音声が出力されます。

4 SPEAKERS（スピーカーズ）つまみを回して、音声を出力するスピーカーを選択します。

OFF： SPEAKERS（スピーカーズ）端子に接続したスピーカーからは音声を出力しません。

A： SPEAKERS（スピーカーズ）端子Aに接続したスピーカーから音声を出力します。

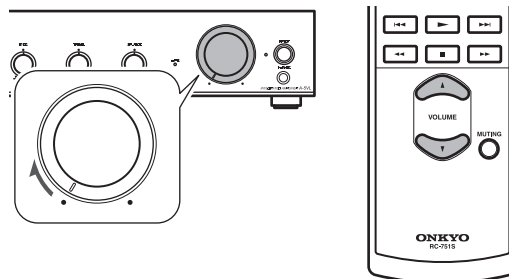
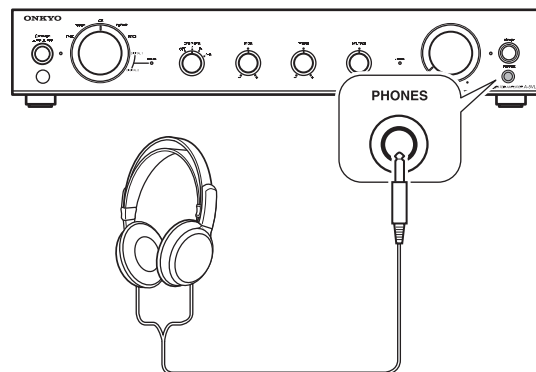
B： SPEAKERS（スピーカーズ）端子Bに接続したスピーカーから音声を出力します。

A+B： SPEAKERS（スピーカーズ）端子AとBに接続したスピーカーから音声を出力します。

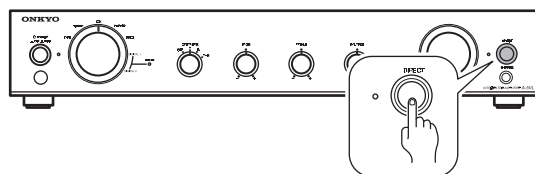
5 手順3で選択した機器で再生を開始します。

6 VOLUME（ボリューム）つまみを回して音量を調節します。

リモコンのVOLUMEボタンでも操作できます。

メモ

- リモコンのMUTING（ミューティング）ボタンを押せば、音量を最小にできます。このとき、本機前面のMUTING（ミューティング）インジケーターが点灯します。もう一度MUTING（ミューティング）ボタンを押せば、元の音量に戻ります。
  音量を調節したり、本機のPOWER（パワー）スイッチを押したときも、ミュートは解除されます。
- ヘッドホンで聴くときは、音量を小さくしてから本機前面のPHONES（フォーンズ）端子にヘッドホンのプラグを差し込みます。このとき、スピーカーからは音声が出力されなくなります。

音楽の鑑賞（本機の操作方法）- つづき

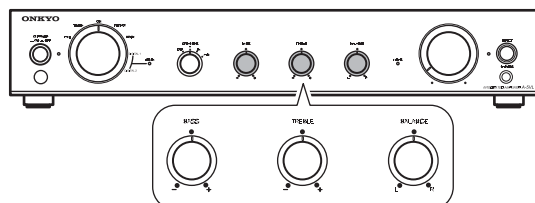
音質と左右の音量バランスの調節

1 本機前面のDIRECTスイッチを押してオフにします。

DIRECTオフ：本機のBASS調節つまみやTREBLE調節つまみ、BALANCE調節つまみで調節した音声を出力します。

DIRECTオン：BASSやTREBLE、BALANCEの音質調整回路を通らない、ダイレクトな音声を出力します。

2 低音を調節するときはBASS調節つまみを回します。

高音を調節するときはTREBLE調節つまみを回します。

左右のスピーカーから出力される音量のバランスを調節するときはBALANCE調節つまみを回します。

メモ

- BASS調節つまみとTREBLE調節つまみは、右に回すとその音域が強調されます。
- BALANCE調節つまみでは左右の音量差を調節できますが、つまみを左右どちらかに一杯まで回しても、そちらのスピーカーから出力される音量は小さくなるだけで0（ゼロ）にはなりません。
- 通常はつまみを中央の位置にして使用してください。

録音

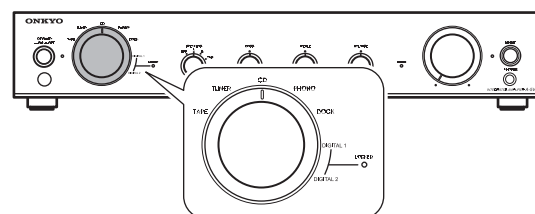
本機に再生機器と録音機器の両方を接続している場合の録音方法です。

メモ

BASS、TREBLE、BALANCEを手動で設定した音質は反映されません。

ご注意

あなたが録音したものは、個人として楽しむほかは著作権法上、権利者に無断で使用できません。

1 本機前面の入力切換つまみを回して、音声を再生する機器を選択します。

2 録音機器を録音待機状態にします。

メモ

詳しい操作方法は、録音機器の取扱説明書を参照してください。

3 再生機器で再生を開始します。
録音機器で録音を開始します。

ご注意

録音中は本機の入力切換つまみを動かさないでください。途中で入力切換つまみを動かすと、新しく選択された機器からの音声が録音されてしまいます。

困ったときは

下記の点を確認してください。本機に接続している機器が原因の場合もありますので、各機器の取扱説明書も参照して確認してください。

! ご注意

- **本機はマイクロコンピューターにより高度な機能を実現していますが、ごくまれに外部からの雑音や妨害ノイズ、また静電気の影響によって誤動作する場合があります。そのようなときは、本機の電源をオフにして約5秒待ち、再度オンにしてみてください。**
- **製品の故障により正常に録音できなかったことによって生じた損害（CDレンタル料等）については保証対象になりません。大事な録音をするときは、あらかじめ正しく録音できることを確認の上、録音してください。**

電源

症状	対処	参照ページ
電源が入らない	電源プラグがコンセントから抜けていないか確認してください。 また、本機の AC INLET から電源コードが抜けていないか確認してください。	→ p.14
	一度電源プラグをコンセントから抜き、 5 秒以上待ってから再度コンセントに差し込んでください。	
電源が切れ、 POWER インジケーターが点滅している	保護回路が働いている可能性があります。 電源コードをコンセントから抜き、 お買い上げ店またはコールセンターにご連絡ください。	

音声

症状	対処	参照ページ
音声が出力されない	接続コードのプラグは奥まで差し込んでください。	→ p.10
	接続した機器の入力端子 / 出力端子に間違いがないか確認してください。	
	スピーカーコードの＋ / －は正しく接続されているか、 スピーカーコードのしん線部が本機のスピーカー端子の金属部に確実に固定されているか確認してください。	→ p.10
	入力機器が正しく選択されているか確認してください。	→ p.15
	MUTING インジケーターが点灯している場合は、 リモコンの MUTING ボタンを押して解除してください。	→ p.15
	レコードプレーヤーのタイプに応じて、 MM/MC を切り換えてください。	→ p.11
	ケーブルが折れ曲がったり、 損傷したりしていないか確認してください。	
デジタル接続されている機器の音声が出力されない	デジタル音声信号のフォーマットが対応しているか確認してください。	→ p.14
ノイズが出る	音質劣化の原因となりますので、オーディオ用ピンコードと電源コードなどを束ねないでください。	
	接続コードが他機器の影響を受けている可能性があります。接続コードの位置を変えてみてください。	

リモコン

症状	対処	参照ページ
リモコン操作ができない	電池の極性 （＋ / －） が正しいか確認してください。	→ p.9
	電池を 2 本とも新品に交換してみてください。	→ p.9
	リモコンと本体の間が離れすぎていませんか？リモコンと本体の間に障害物がありませんか？	→ p.9
	本体のリモコン受光部に強い光（インバータ蛍光灯や直射日光）が当たっていませんか？	→ p.9
	オーディオラックのドアが色付きガラスだったり、装飾フィルムを貼られていたりすると、 正常に機能しないことがあります。	→ p.9

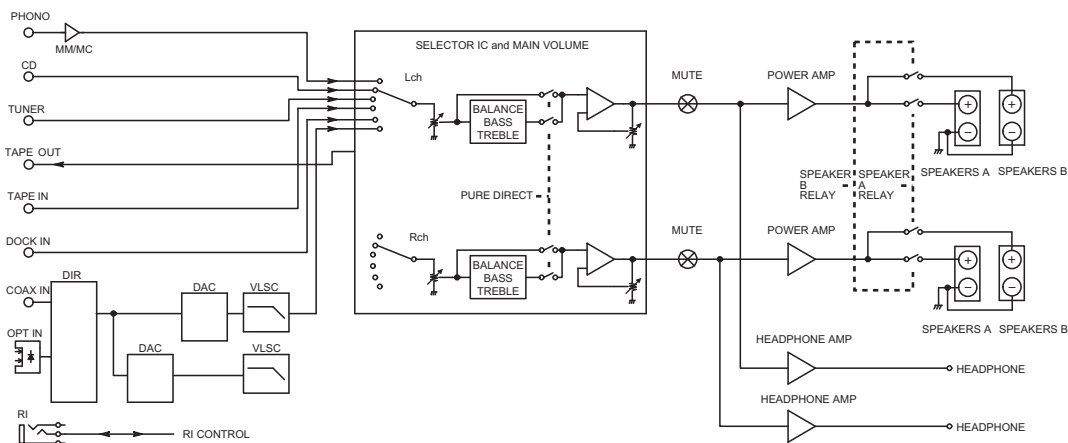
録音

症状	対処	参照ページ
録音できない	録音機器側でデジタルやアナログなどの入力切換が正しくできているか確認してください。	

付録

仕様

電源・電圧 ：AC100V、50/60Hz
消費電力 ：170W
最大外形寸法 ：435（幅）×80（高さ）×340（奥行）mm
質量 ：10.2kg
定格出力 ：100W＋100W（2Ω 1kHz、全高調波歪率0.8%以下、2ch駆動時、JEITA）
80W＋80W（4Ω 1kHz、全高調波歪率0.8%以下、2ch駆動時、JEITA）
実用最大出力 ：130W＋130W（2Ω 1kHz、2ch駆動時、JEITA）
全高調波歪率 ：0.08%（1kHz、1W出力時）
ダンピングファクター ：60（Front、1kHz、8Ω）
入力感度/インピーダンス ：200mV/33kΩ（LINE）
2.4mV/47kΩ（PHONO MM）
出力電圧/インピーダンス ：200mV/2.2kΩ（REC OUT）
PHONO最大許容入力 ：60mV（MM 1kHz 0.5%）
6.0mV（MC 1kHz 0.5%）
周波数特性 ：5Hz～60kHz/+1dB－3dB（LINE）
トーンコントロール最大変化量 ：+14dB、-14dB、100Hz（BASS）
+12dB、-12dB、10kHz（TREBLE）
+0dB、-12dB（BALANCE）
SN比 ：100dB（LINE、IHF-A）
65dB（PHONO、IHF-A）
スピーカー適応インピーダンス ：2Ω～16Ω
音声入力（デジタル） ：OPTICAL/COAXIAL
音声入力（アナログ） ：PHONO/CD/TUNER/TAPE/DOCK
音声出力（アナログ） ：TAPE
ヘッドホン ：1

ブロック図

修理について

保証書

この製品には保証書を別途添付していますので、お買い上げの際にお受け取りください。
所定事項の記入および記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。
保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

調子が悪いときは

意外な操作ミスが故障と思われています。
この取扱説明書をもう一度よくお読みいただき、お調べください。本機以外の原因も考えられます。ご使用の他のオーディオ製品もあわせてお調べください。それでもなお異常のあるときは、電源プラグを抜いて修理を依頼してください。
修理を依頼されるときは、下の事項をお買い上げの販売店、または付属の「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」記載のお近くのオンキヨー修理窓口までお知らせください。
●お名前
●お電話番号
●ご住所
●製品名 A-5VL
●できるだけ詳しい故障状況

オンキヨー修理窓口について

詳細は付属の「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

保証期間中の修理は

万一、故障や異常が生じたときは、商品と保証書をご持参ご提示のうえ、お買い上げの販売店またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。詳細は保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

お買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料修理致します。

補修用性能部品の保有期間について

本機の補修用性能部品は、製造打ち切り後最低8年間保有しています。この期間は経済産業省の指導によるものです。
性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。保有期間経過後でも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますのでお買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。